

NEWS PAPER

SUPER FORMULA 2021 ————— P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Take Free!

©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

P.MU/CERUMO INGING Race Report Season 2021, Take Free Paper.

@INTERVIEW

Sho TSUBOI #38

38号車 ドライバー 坪井 翔

勝敗の 要因は何か

Sena SAKAGUCHI #39

39号車 ドライバー 阪口 晴南

Yuji TACHIKAWA

監督 立川 祐路

Today's Race Rd,5

Twin Ring Motegi

8.28^{SAT}/29^{SUN}

@Race Archive Rd.4 Sportsland Sugo

エンジンを 音を



とどろ

車轟かせる! 5

@Race Archive

Rd.4 Sportsland Sugo

レースアーカイブ
Round.4 スポーツランド菅生

予選 6月19日(土)
天候:雨/コース状況:ウェット

エンジン音を

轟轟轟!! とどろ

迎えた予選日、朝から雨。止むことなく降り続く雨中、午前9時10分フリー走行が開始された。持ち込みセッションを確認しつつ、90分のセッションは、赤旗中断があったものの、阪口2番手、坪井3番手と気持ち良いスタートを切ることができた。

雨が得意な坪井トップを走るも、スピンしエンジンストールでQ2敗退。阪口はQ3へ

Q3: セッションのスタートと共に雨量がさらに増す。阪口は3周目2番手、4周目1分19秒445で3番手。前戦に続き予選3番手を獲得した。予選は、どのセッションも使用するタイヤが全て違った繊細なコンディションだった。前回のオートポリスラウンドの40分の計時アタックで獲得した3番グリッドは、赤旗で中断が多く、ピット位置にも左右される結果だったと話す阪口。しかし、今回は全車が平等にアタックし勝ち進んで獲得した3番グリッド。速さもさらに磨きがかかった。坪井は、残念さに本人も肩を落とす結果ではあったが、2台で予選上位を具体的にイメージできる好調さがあることで、チームのムードは悪くない。

決勝 6月20日(日)
天候:曇り/コース状況:ドライ

昨日から降り続いた雨は朝方には上がり、ドライコンディションで迎えた決勝日。フリー走行が始まる頃は小雨がバラついたものの、天候は決勝レーススタート直前に一気に回復に向かった。



天候は決勝レース直前に一気に回復に向かった

朝の曇り空がうそのような青空が広がり、初夏の日差しの照り付ける中、13時半、熱戦の火ぶたが切って落とされた。3番グリッドからスタートの阪口は、スタートを上手く決め、また2番グリッドからスタートの6号車が出遅れた事もあり、2番手で1コーナーに飛び込んで行く。3周目、1コーナーへの侵入からオーバーテイクシステムを使って後方から攻めて来た5号車と競り合う。ブレーキングで止まらずバランスを崩してしまい、5号車に接触してしまった。どうにか体勢を戻しコースに留まらねど、コースの外側のダスティな部分まで走ってしまう。その為、タイヤの心配などをしつつクルマの状況を探りながら走っている間に、6番手までポジションを落としてしまった。10周目、ピット作業が可能になると上位の1台がピットへ入り5番手に上がる。早めのピットを選択した阪口は、19周目にピットイン。17番手でコース復帰した。フレッシュなタイヤで2秒ほどペースが上がるも、上位のクルマをパスするには速さが足りない。一方、坪井は、スタートでポジションを1つ上げ13番手、3周目12番手、5周目に3号車に抜かれ13番手。10周目に入ると坪井より上位のクルマ2台がピットインし11番手へ浮上。その後モットピットへ向かうクルマで順位が変動していく。レースが折り返した26周時点で、阪口11番手。坪井はピット作業を引っぱりステアアウト。4番手を走行していた。阪口は、ピットへ向かうクルマの状況で34周までに8位へと上がる。その後

は、思いのほか離されてしまった前を行く37号車との約9秒のギャップを埋めるパワーはなく、そのまま周回を続け8位でチェッカーを受けた。4番手だった坪井は、26周を終えた時点でピットへと向かう。ここでメカニックたちはピット作業を7秒0の早さで終え、コースへと送り出した。17位でコース復帰した坪井だったが、こちらも思うようにペースが上がらない。前半のスティントとほぼ同等のペース。上位のピットインと34周目で4号車をオーバーテイクした坪井は15位へと上がった。残り周回は、こちらも前の3号車に追いつくことが叶わず。約17秒もの差がついてしまい、そのまま15位でチェッカーを受けた。ウェットとは裏腹になかなか勝負ができないドライコンディションでの2台の走り。ドライでの走りは、チームの以前からの課題でもある。ピット作業など、改善をして良くなっている点もあり、今回はそれが発揮された。

@INTERVIEW

阪口 晴南 39号車 ドライバー

Sena SAKAGUCHI #39

▶開幕戦のような失敗はなくなった

ス タートが上手く行きました。ウェットでもドライでも改善出来て開幕戦のような失敗はなく最近では上手くいっていると思います。序盤の1コーナーでの競り合いでは、止まり切れず福住選手に迷惑をかけてしまいました。その後は、まったくペースが上がらず、レース中は前が離れて行き、後ろは追いついてくる状態で成す術がありませんでした。今後ドライの走り方についてもっと考えなくてはならないと思っています。



選手に迷惑をかけてしまいました。その後は、まったくペースが上がらず、レース中は前が離れて行き、後ろは追いついてくる状態で成す術がありませんでした。今後ドライの走り方についてもっと考えなくてはならないと思っています。

坪井 翔 38号車 ドライバー

▶勝敗の Sho TSUBOI #38 要因は何か

決 勝は全く良い所がありませんでした。雨では良いのにと考えると、菅生のドライでの走りに関しては、もう少し考えないといけないと思っています。晴南も集団に飲み込まれているので、何か原因があると思いますし遅い要因をしっかりと追究する必要があると思っています。次のもてぎは菅生よりは大丈夫だと思うので、上位を目指して頑張ります。



立川 祐路 チーム監督

Yuji TACHIKAWA

▶2台ともペースが全然足りない、守りのレースに

昨 日のウェットからドライコンディションへと変わり、2台ともペースが全然足りませんでした。それに尽きると思います。周りと戦うには厳しい状況であり、守りのレースとなってしまいました。予選の調子の良さを考えると、残念ですね。きちんと原因を見つけて次に活かしたいと思います。応援ありがとうございました。

総評

若手ドライバーがのびのび頑張ることができる環境は、われわれチームの特徴でもあるので、才能あるドライバーと共に、良いレースをお見せできるよう精進していく。

Results

38 予選 14位

決勝 15位

39 予選 3位

決勝 8位

Today's Race Rd.5

Twin Ring Motegi 8.28 SAT / 29 SUN

